

研究協力をお願い

当院では厚生労働省の研究班が実施する「薬剤過敏症症候群（DIHS）」の疫学調査に協力しております。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示によるお知らせの後、臨床情報が研究に用いられることをご了承されない旨のご報告が無い場合、ご同意をいただいたものとして研究に用いさせていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問などは問い合わせ先までご連絡ください。

下記の研究は主任研究機関である杏林大学医学部 「人を対象とする研究等に関する倫理審査委員会」の承認後、同大学病院長の研究実施許可を得ています。また、南奈良総合医療センターの倫理審査委員会で審査され、許可を得て行われま

研究課題名
薬剤性過敏症症候群（DHIS）診療ガイドライン作成のための疫学調査
1. 研究対象と研究対象期間 2017年1月～2019年12月に当院でDIHSと診断された方
2. 研究目的、方法 DIHSは重症薬疹の1つで、抗けいれん剤などの限られた薬剤が原因となり、経過中に重篤な合併症を生じることが知られています。2013年に実態を把握するための全国疫学調査が行われましたが、その後、DHISの原因薬剤や、重症の程度および後遺症に関して次々と新しい知見が報告されています。また、治療に関しても十分な情報収集が必要とされています。この研究は厚生労働省 難治性疾患政策研究事業 重症多型滲出性紅斑に関する調査研究班によるプロジェクトの1つです。日本皮膚科学会認定皮膚科専門医の研修施設である全国645の病院から調査を行い、対象期間にDIHSと診断された患者様の治療カルテから得られた情報を収集し、主任研究施設である杏林大学医学部皮膚科科学講座を中心とした研究実施施設で解析を行い、この疾患の診療ガイドライン作成に役立てることを目的とします。 研究期間は当院の倫理審査委員会承認日から2024年3月までとなります。
3. 研究に用いる試料、情報の種類は以下のような内容になります あてはまる診断基準、 入退院日、年齢、身長、体重、既往歴などの患者基本情報

原因薬と思われる薬剤とその投与期間
症状や検査所見、重症度のスコア
種々の臓器に起こった合併症
ウイルス検査所見
治療経過、後遺症など

4. 外部への試料、情報の提供

カルテ ID や氏名、住所など個人を識別できる情報は調査項目には含まれておらず、当院から提供はいたしませんので、患者さんの個人情報外部に漏れることはありません。解析した結果は学術集会や学会雑誌に発表されますが、この場合も個人が特定される情報が公開されることはありません。

5. 研究組織

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医の研修施設である全国 645 の病院を対象に調査を行います。解析を行うのは厚生労働省 難治性疾患政策研究事業 重症多型滲出性紅斑に関する調査研究班に属する以下の担当者になります。

<研究代表者>

杏林大学医学部皮膚科 臨床教授 水川 良子

<実施施設・研究責任者>

島根大学医学部 教授 森田 栄伸

横浜市立大学大学院医学研究科 准教授 山口 由衣

奈良県立医科大学医学部 教授 浅田 秀夫

新潟大学大学院医歯学総合研究科 教授 阿部 理一郎

磐田市立病院皮膚科 部長 橋爪 秀夫

順天堂大学医学部衛生学 准教授 黒澤 美智子

京都大学大学院医学系研究科 教授 椋島 健治

杏林大学医学部 教授 大山 学

慶應義塾大学医学部 専任講師 高橋 勇人

四国がんセンター皮膚科 医長 藤山 幹子

島根大学医学部 講師 新原 寛之

京都府立医科大学医学部眼科学講座 教授 外園 千恵

山梨大学医学部 教授 川村 龍吉

京都大学大学院医学研究科 特任准教授 野村 尚志

奈良県立医科大学医学部 講師 宮川 史

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等は下記までお問い合わせください。ご希望があれば、研

究計画書等を閲覧することができますのでお申し出ください。また、資料、情報が当該研究に用いられることについて、患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合は研究対象といたしませんので、当院の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

当院の担当者の連絡先

南奈良総合医療センター 皮膚科 岡崎 愛子

住所：奈良県吉野郡大淀町大字福神 8 番 1

電話番号：0747-54-5000

本研究の代表者

杏林大学病院 皮膚科学教室 水川 良子

住所：東京都三鷹市新川 6-20-1

電話番号：0422-47-5511